

小学校 最優秀賞



「地域の方の温かさ」

三本柳小学校 六年 丸山 莉歩 さん

毎朝通る四カ所の交差点には、必ず五人ほど地域の方々が立ってくれています。いつも黄色い旗をもって、

「おはようございます。」

と、明るくあいさつをしてくれます。私も大きな声で、

「おはようございます。」

と、しっかりあいさつをするように心がけています。朝、元気にあいさつが出来ると、気持ちよく一日をスタート出来ます。

更に、地域の方は、私達の安全も見守ってくれています。私は、六年生になり登校班の班長になりました。時々班の列が乱れたり、間が開いてしまったりします。その時には、地域の方が、

「ちゃんと並んで歩いて。」

と、声をかけてくれたり、私達の班が一番最後のときには、と中までついてきてくれたりします。どんな時も必ず交差点に立ってくれていて、雪の日は、

「足もと、こおってるから、気をつけてね。」

と、言ってくれます。私達のことをいつも気づかってくれて、とても感謝しています。

また、私の地域では、青波公園夏祭りや、丹波島地区運動会、秋祭り、どんど焼きなど、地区でみ力的な行事がたくさんあります。

夏祭りでは、地区の方や育成会の役員の方が、会場の準備や片付け、屋台やお店を開いてくれています。私の母は、育成会の役員をしています。今年は射的の担当でした。

「始まる前から長い行列が出来ていて大にぎわいだったよ。暑くて大変だったけど、子ども達の楽しそうな表情を見て、うれしかったよ。」

と笑顔で話していました。私は今年夏祭りには行けませんでした。夏祭りの準備でくじを作ったり、お店のかんばんを作ったりして、準備の大変さを初めて知りました。水ヨーヨーのこより付きつり針作りや、糸ゴム持ち手用輪っか作りなど、様々な種類の作業があつてびっくりしました。時間もかかり、手先がとてもつかれました。

夏祭りや、地区の運動会などの行事は、全国的に減ってきていると聞いたことがあります。今までは、参加して楽しいなと思っていただけでしたが、六年生になって準備を手伝ってみて、行事を企画したり、準備をしたりするのは、とても大変なことだと身をもって知りました。

私が今まで当たり前だと思っていたことは地域の方々に支えられて出来ていたことだ気付きました。私が住む丹波島地区の安全で平和な暮らしにあらためて感謝したい気持ちになりました。目に見えないところで、こうして私たちの生活を支えてくれている方々の存在を自分の中で初めて意識したかなと思います。ボランティアで毎日子どもたちの安全のために活動している行動力を見習いたいと思いました。

これから中学生に向けて六年生のイベントがたくさんあります。二学期は、東京修学旅行や三本柳フェスティバルなど楽しい行事があります。給食委員会副委員長の任期も残り半年を切りました。私は、人もよく、自分もよくなるようにしっかり行動していきたいです。感謝の気持ちも忘れずに、周りの人を支えられるように努力していきたいと思います。

中学校 最優秀賞



「私の背中を押してくれる場所」

川中島中学校 二年 渡邊 千彩乃 さん

私には、自分の家のようにリラックスして過ごせる場所があります。そこは、親戚や友達の家ではなく、誰かが住んでいる場所でもありません。子どもから大人まで、誰でも来られて色々な人とご飯を食べられる「子ども食堂」です。

「子ども食堂」という言葉を聞いたら、皆さんはどんなことができる場所と想像しますか。「低価格でご飯を提供してくれる場所」だけでしょうか。私は他に、「異年齢の人間関係が広がる場所」でもあると考えます。最近子ども食堂の存在を知っている人が増えたと思いますが、詳しく知らない人が多いのではないのでしょうか。

私が子ども食堂と出会ったのは、小学一年生の頃でした。引っ越した家の近所に子ども食堂があり、月に何度か食事を提供してくれると聞いたので、行ってみることにしたのです。引っ越してきて間もなく、知り合いが全くいなかったのが不安に思っていました。行ってみると上の学年の人や大人の方が話しかけてきてくれたのです。すると、いつのまにか子ども食堂が開いている日は毎日通うようになっていて、違う学年の人との交友関係が広がっていました。また、信頼できる大人も交流している中で見つけられました。

その子ども食堂は、私が引っ越してくる少し前にできたばかりで、決まった人しか来ませんでした。ですが、その人たちが友達に子ども食堂を紹介し、またその友達が別の友達に紹介して、というサイクルが繰り返されてどんどん来る人が増えていきました。

平日は放課後に開いていたので、いただいたおやつを食べながらみんな

なで宿題やカードゲームをしていました。それ以外にも悩み事や心配事を相談したり、うれしかった事や面白かった事を共有し合いました。

そして、学年が上がっていき、自分より小さい人たちが来るようになりました。一緒に遊んだり、分からない問題を教えたりしました。

私も中学生になって家に帰る時間が遅くなり、子ども食堂に通う頻度が減りました。中学校でできた友達に紹介してみると、

「料理がおいしいし、とても楽しかった。」

と、言ってくれて、一緒に通うようになりました。

このように、子ども食堂にはご飯を食べられる以外にも、異年齢の交友関係が広がったり、信頼できる人を見つけられる、安心できるという魅力があります。子ども食堂は、どんな人でも自由に行けて、おなかも心も満たされる、安心できる場所です。みなさんも子ども食堂を見つけたら、立ち寄ってみてはどうでしょうか。